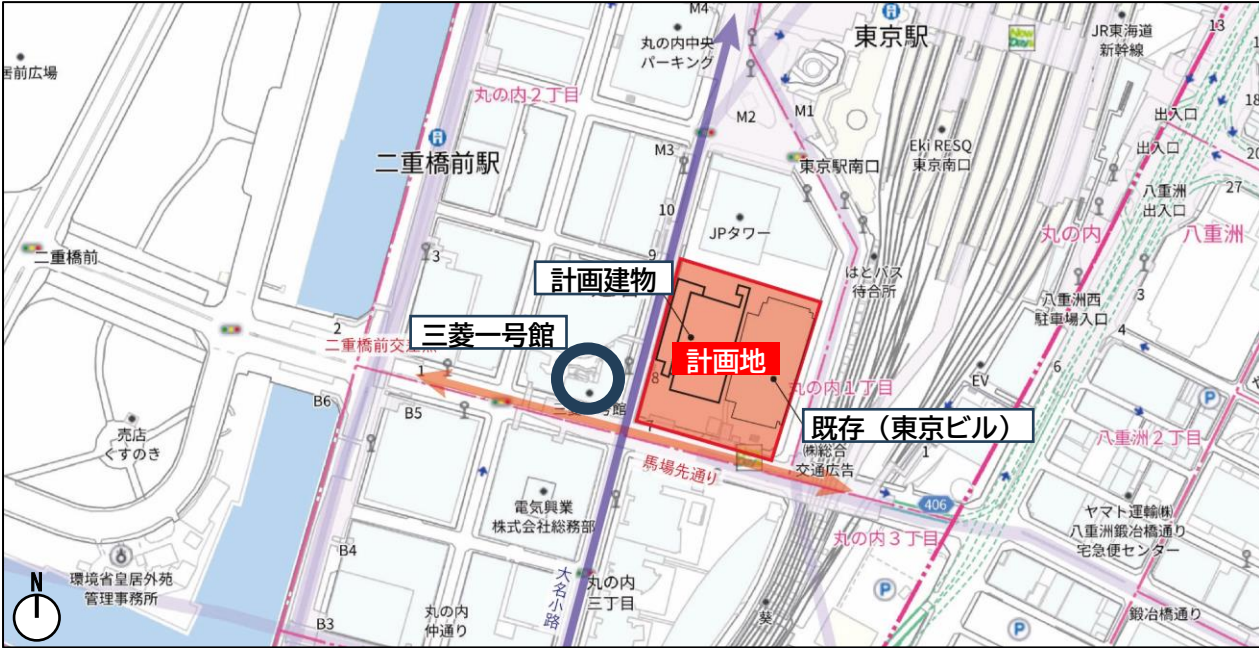


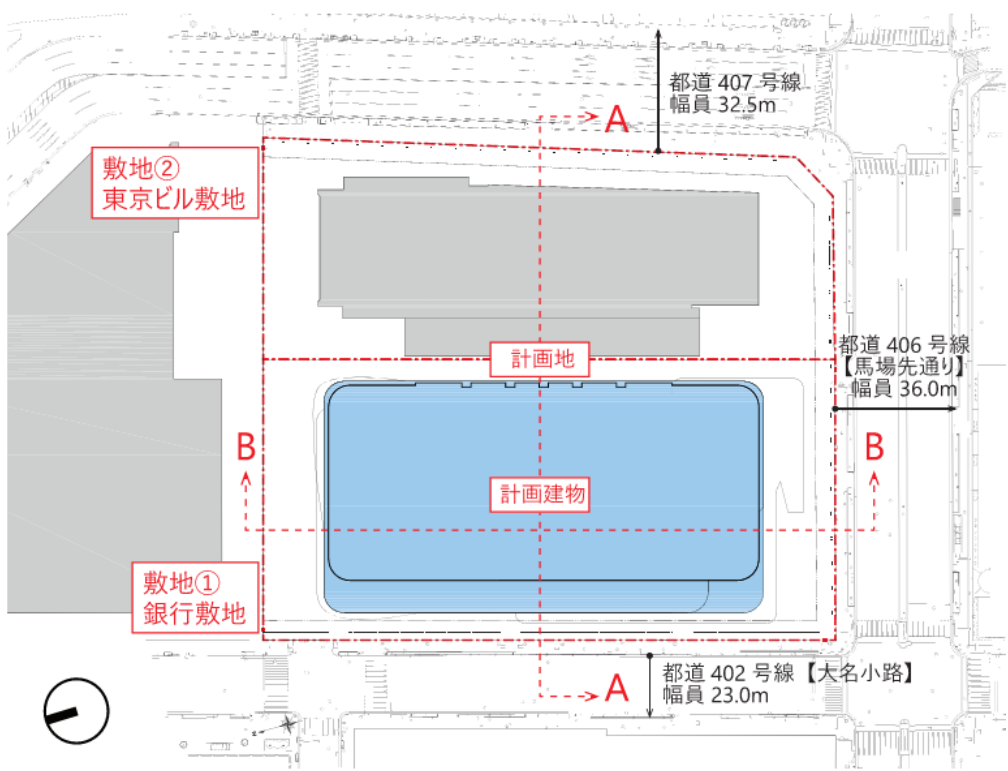
計画概要

地名地番	東京都千代田区丸の内二丁目5番1、3番2	
住居表示	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号、7番3号	
敷地面積	敷地①(銀行敷地)	10,846.96㎡(3,281.20坪)
	敷地②(東京ビル敷地)	8,090.76㎡(2,447.45坪)
地域地区	商業地域、防火地域、大手町・丸の内・有楽町地区地区計画	
その他の地域地区	駐車場整備地区、特定都市再生緊急整備地域、特例容積率適用地域、日影規制なし	
東京都景観計画における地域区分	皇居周辺地域の景観誘導区域(A区域) 大手町・丸の内・有楽町・日比谷地区	
基準建蔽率	100%(指定建蔽率80%+防火地域内の耐火建築物20%)	
基準容積率	1300%	
前面道路	・東側：都道407号線 幅員32.5m	
	・西側：都道402号線【大名小路】 幅員23.0m	
	・南側：都道406号線【馬場先通り】 幅員36.0m	
計画手法	三菱UFJ銀行本館と東京ビルで一団地認定・総合設計許可	
主要用途	事務所・飲食店舗・物販店舗・集会場・自動車車庫等	
建築面積	7,650㎡※1	一団地全体 13,327.91㎡※1
容積対象床面積	138,843.03㎡※1※2	一団地全体 267,164.15㎡※1※2
計画容積率	1,279.97%※1※2	一団地全体 1,410.75%※1※2
延床面積	171,934.03㎡※1	
階数	地下4階、地上28階、塔屋2階	
建物高さ	159.90m※1	

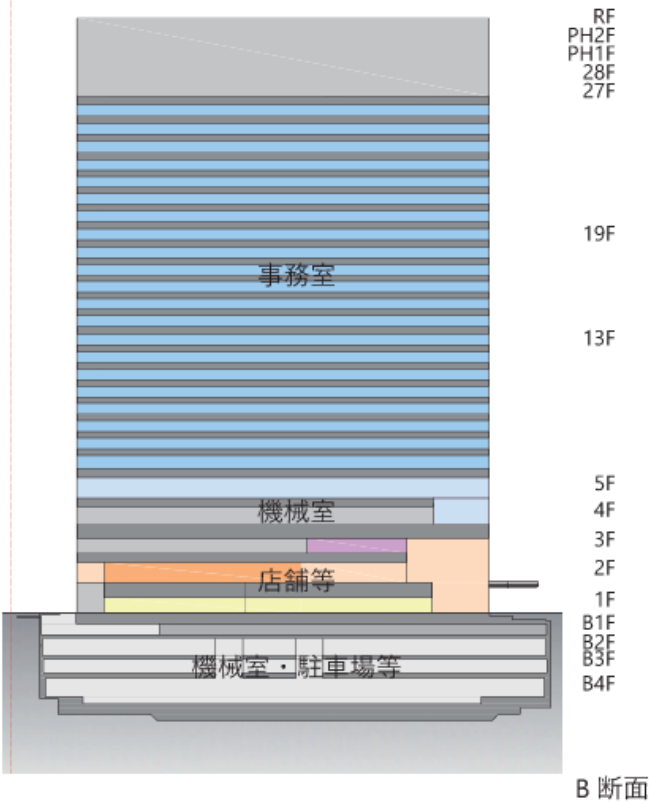
位置図



配置図



断面図



イメージパース

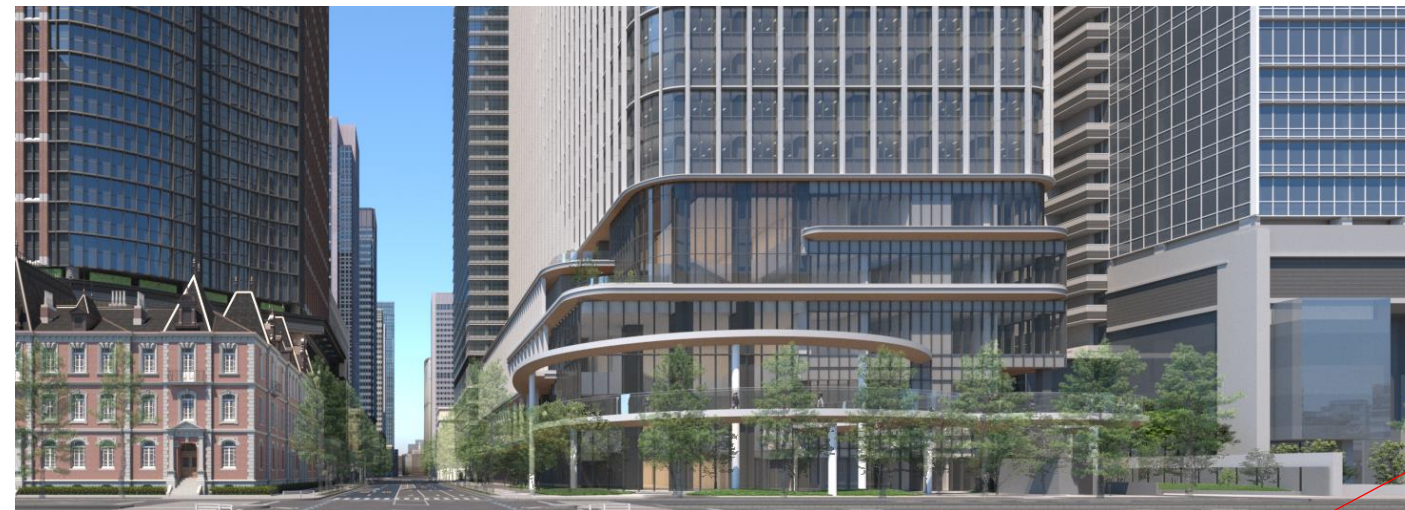
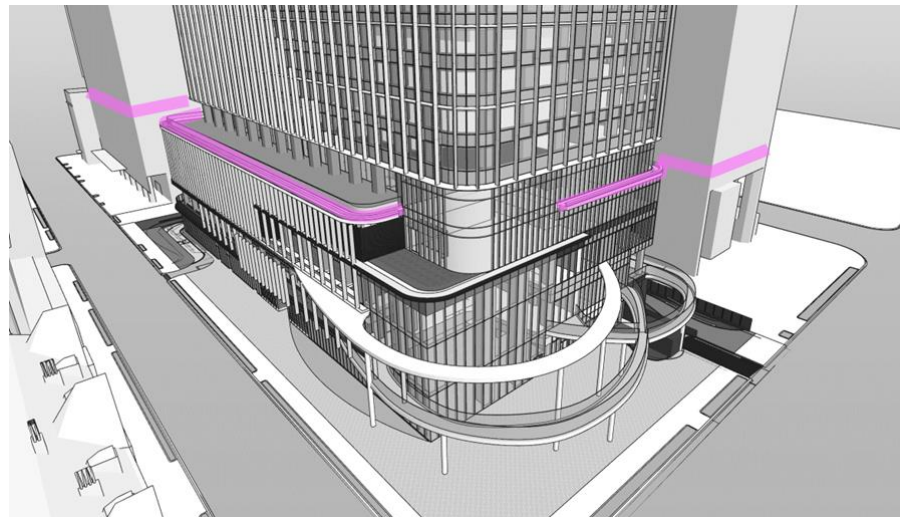


※上記内容については、今後の関係機関との協議・調整により変更する可能性があります。

100尺の表情線の形成による歴史的な街並みとの調和

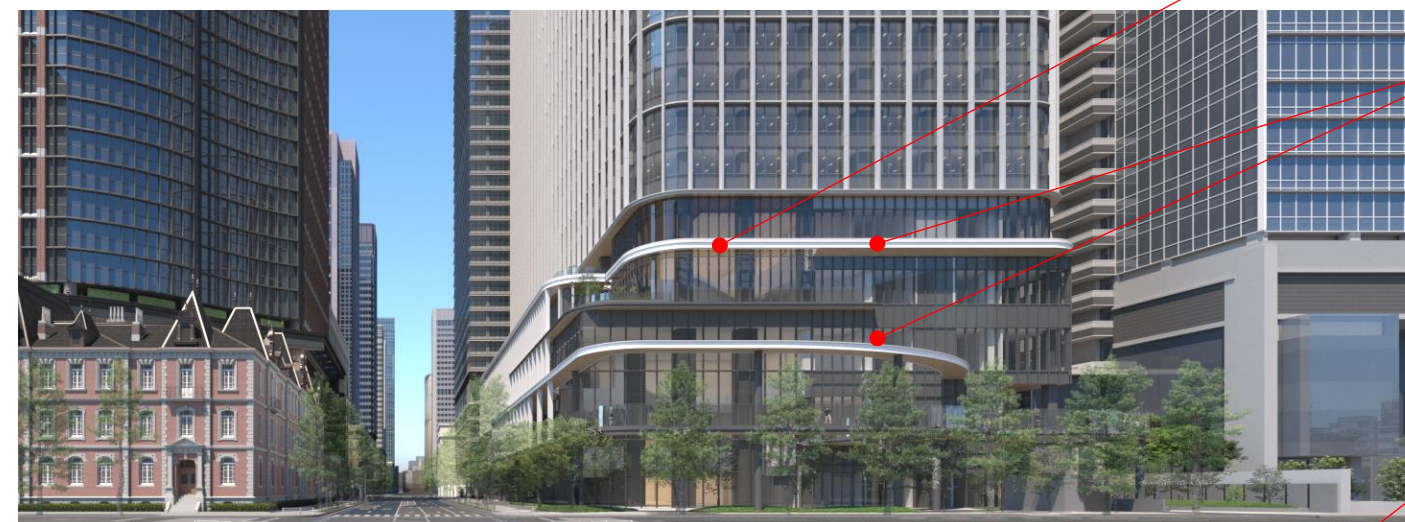
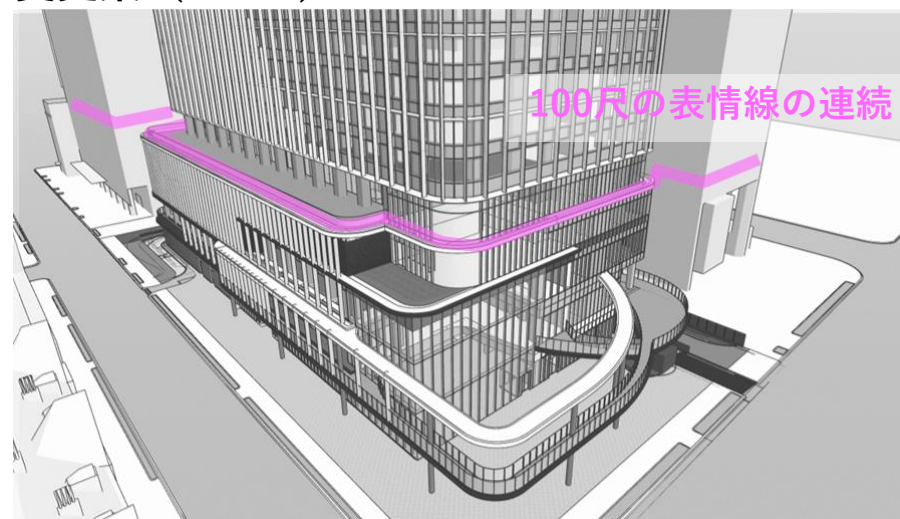
- ・ 100尺の表情線をつなぐことで、周辺の沿道景観と調和するデザインとした
- ・ 一律であった低層部の軒先の形状・色彩について、100尺及び50尺の表情線は強調し、2階・4階部分の軒先は抑えたデザインとする見直しを行った
- ・ 空中歩廊は壁面に寄せてテラス形状にするとともに、空中歩廊上部の庇は中止することで、視認性を高め、三菱一号館を「臨む広場」として計画

当初案 (R5.7)



100尺の表情線をつなぐことで、周辺の沿道景観と調和するデザインとした

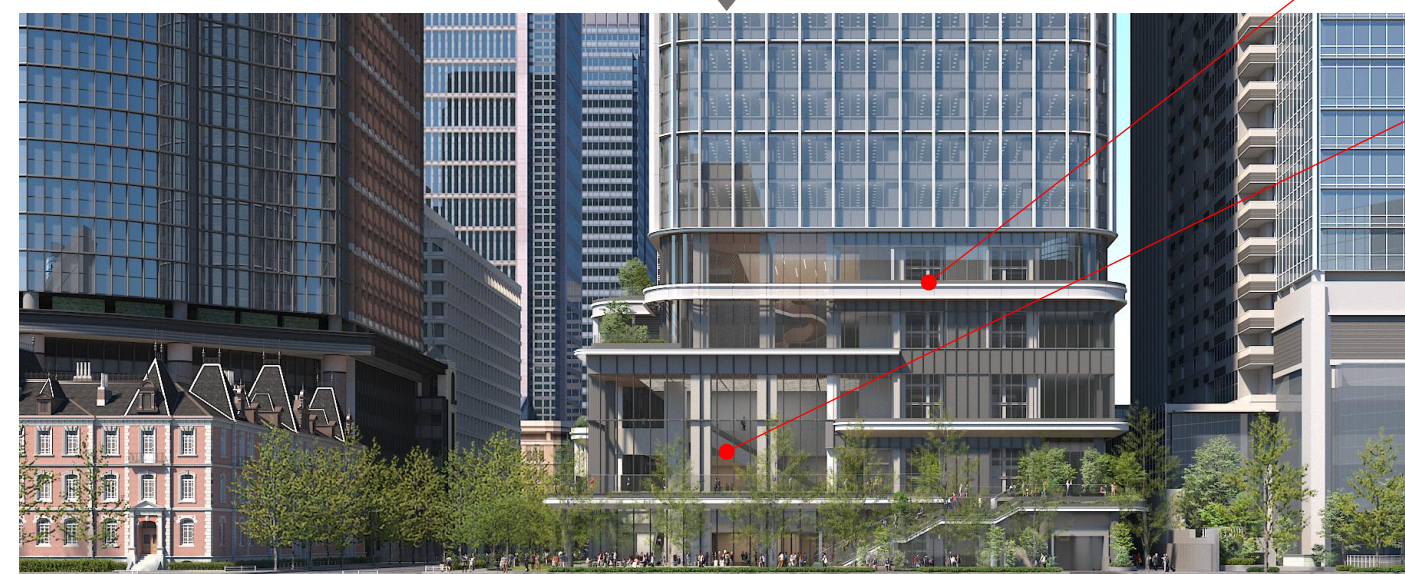
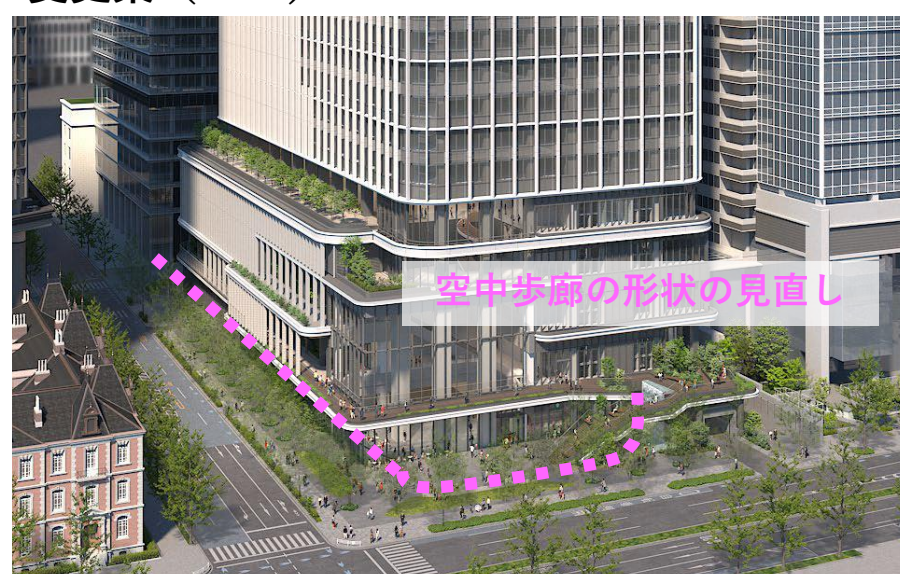
変更案 (R5.12)



一律であった低層部の軒先の形状・色彩について、100尺及び50尺の表情線は強調し、2階・4階部分の軒先は抑えたデザインとする見直しを行った

歴史的な街並みと関係の深い100尺のシルエットについては、見附幅を大きく際立たせる見直しを行った

変更案 (R7.9)



空中歩廊は壁面に寄せてテラス形状に見直すとともに、空中歩廊上部の庇は中止して、三菱一号館への視認性を高める計画の見直しを行った

表情線(100尺)軒先形状



三菱一号館との調和に配慮した中低層部デザイン

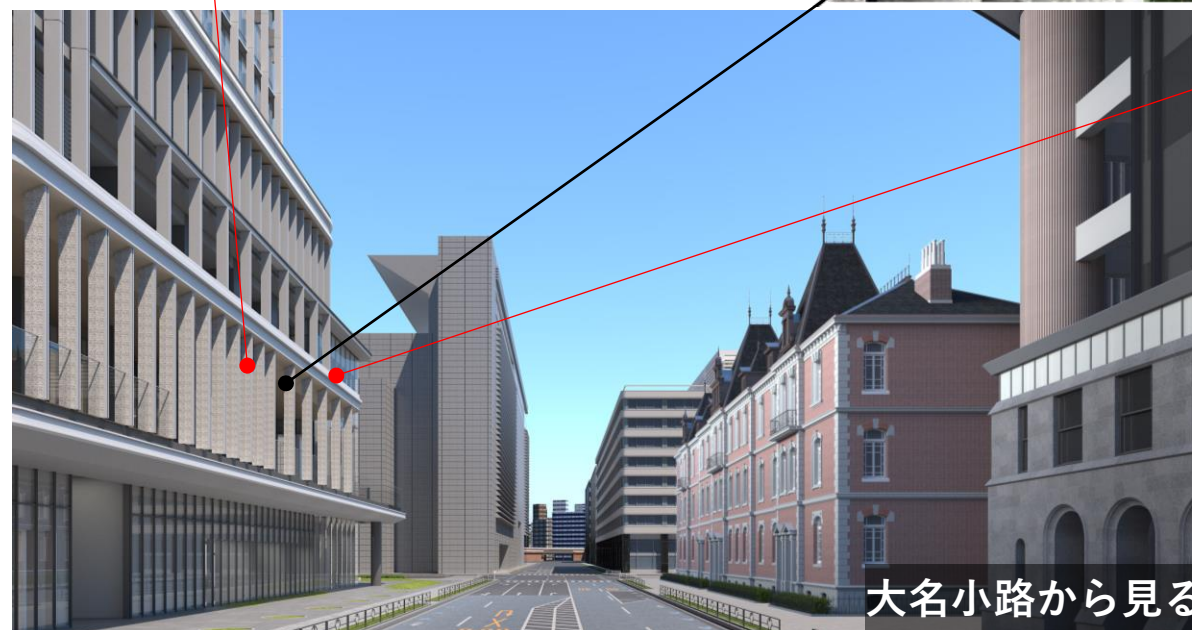
当初案（R5.7）



変更案（R7.9）

縦フィンに現本館の石の表情を取り入れ、その密度を上げることで重厚感のある低層部を構成

現銀行本館・本店
の石の表情



- ・ 50尺の高さとなる3階部分は直線的な底形状とし、三菱一号館と相対する50尺の軒のシルエットを構築
- ・ 三菱一号館と相対する低層部分の縦フィンに、現本館の記憶を継承する石の表情を取り入れ、縦素材の密度を上げることで重厚感ある低層部を構成し街並みの連続感を形成

当初案（R5.7）

50尺



変更案（R7.9）

50尺高さとなる3階部分は直線的な底形状とし、三菱一号館と相対する50尺の軒のシルエットを構築

空中歩廊は壁面に寄せてテラス化するとともに、空中歩廊上部の庇は中止して、三菱一号館への視認性を高める計画の見直しを行った

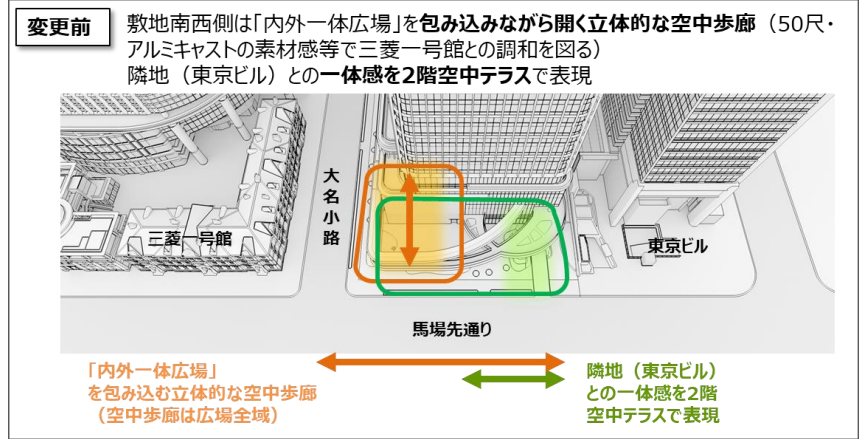
50尺



三菱一号館との調和に配慮した中低層部デザイン

- ・ 空中歩廊は壁面に寄せてテラス化するとともに、空中歩廊上部の底は中止することで、視認性を高め、三菱一号館を「臨む広場」として計画
- ・ 既存緑地の継承、隣地（東京ビル）との一体的な緑地帯の形成を図るため、南東側2階テラスにまとまった緑地帯を設けるとともに、南西広場と一体感のあるランドスケープを構築

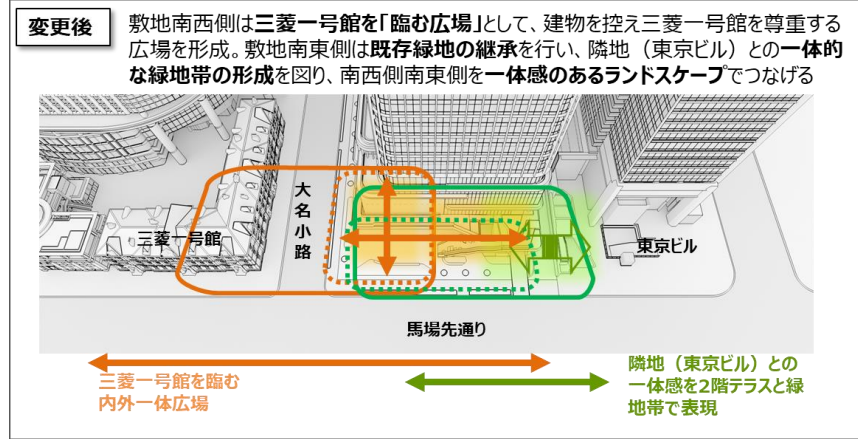
変更案（R7.4）



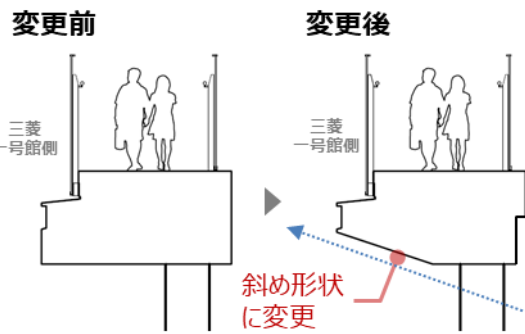
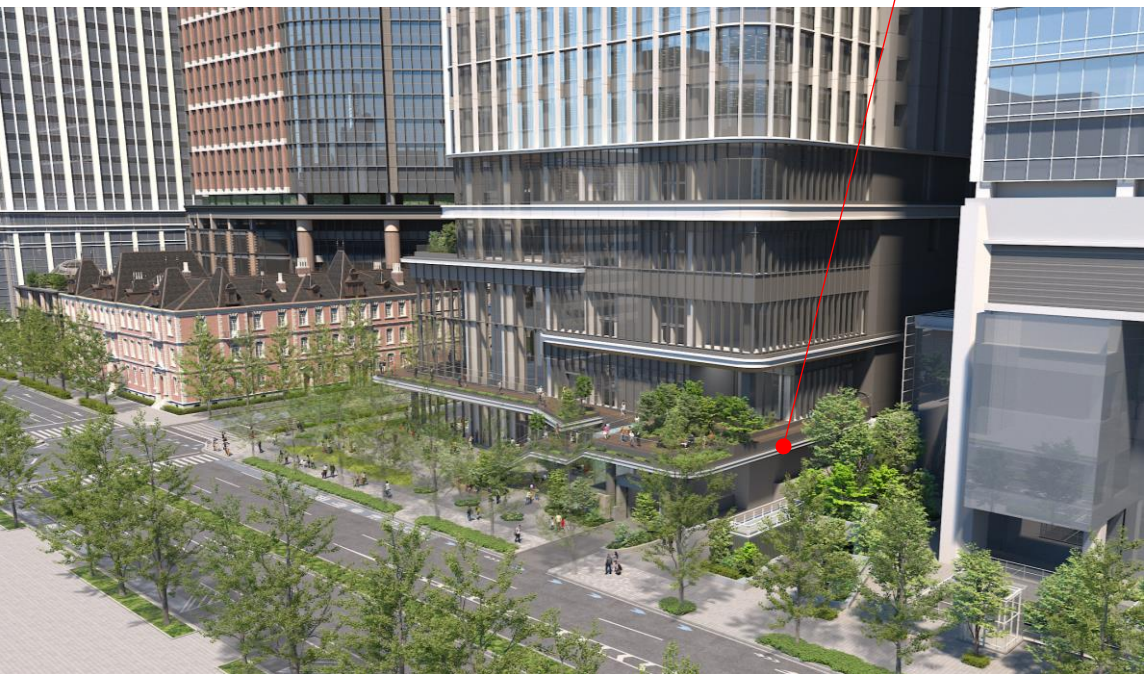
「地域に開かれた本館」を目指し、より街からの視認性の高い、賑わいの場を構築するため、建物と一体化した象徴的な空中歩廊がある広場を計画していた。



変更案（R7.9）



既存の緑地を継承し、隣地（東京ビル）との一体的な緑地帯を形成するため、2階テラスにまとまった緑地を整備



空中歩廊の軒裏を折り上げた斜め形状に変更し、南西広場からの三菱一号館への視認性の向上する見直しを行った。



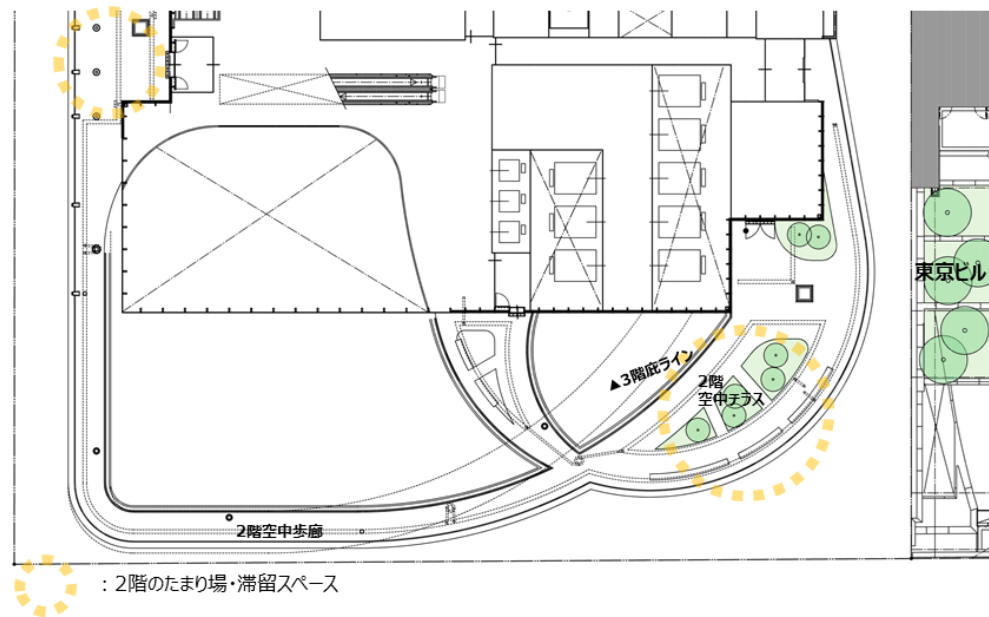
空中歩廊を建物際に寄せてテラス形状とすることで、三菱一号館への視認性を向上

※上記内容については、今後の関係機関との協議・調整により変更する可能性があります。

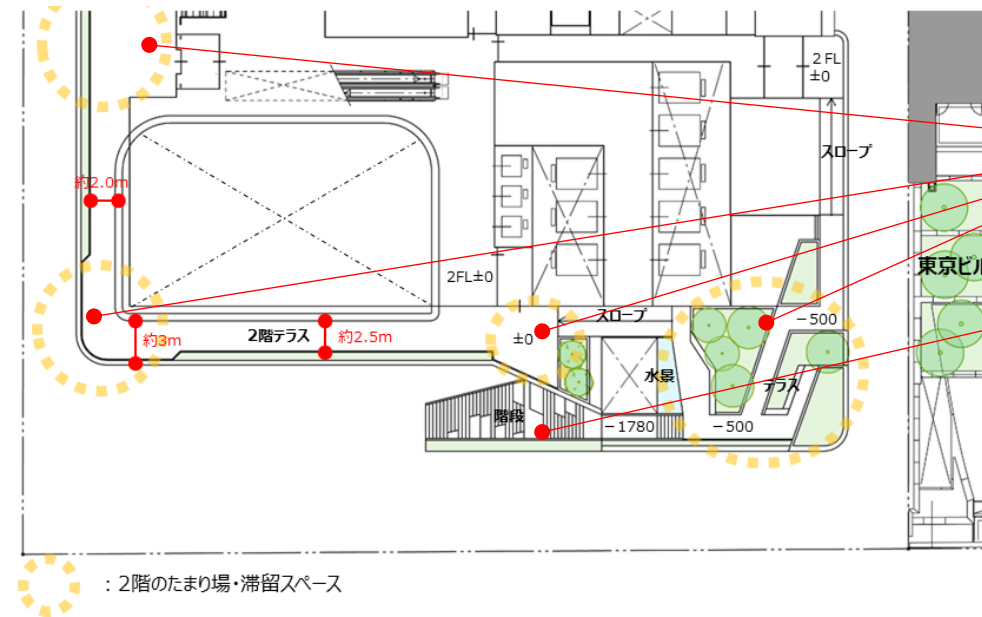
「地域に開かれた本館」を象徴する広場空間の形成

- ・屋外広場から2階テラスへ直接アクセスできるランドスケープと一体の屋外階段を設け、回遊性を強化した。
- ・2階テラスは周辺環境、建物内部との連続性を考慮し、テラスの設置位置・幅員の強弱
- ・植栽計画等を工夫し、場所性に合わせた「たたずむ場所」を計画した。

変更案（R7.4）



変更案（R7.9）



テラスの設置位置等の工夫を行い、場所性に合わせた「たたずむ場所」を計画した

2階テラスへ直接アクセス可能な階段を設置し、回遊性を強化

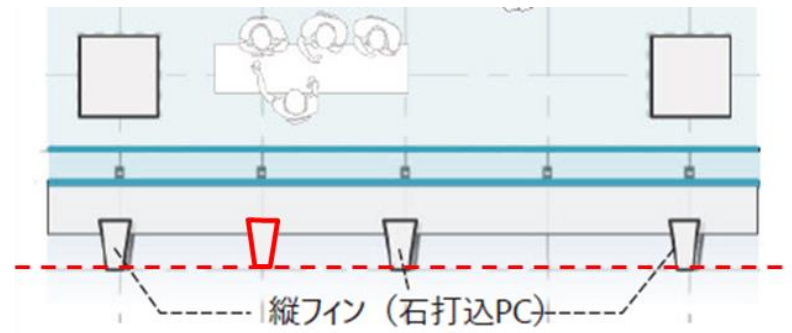
三菱一号館を臨む広場から2階テラスまで地域に開放し、「地域に開かれた本館」を象徴する広場とした



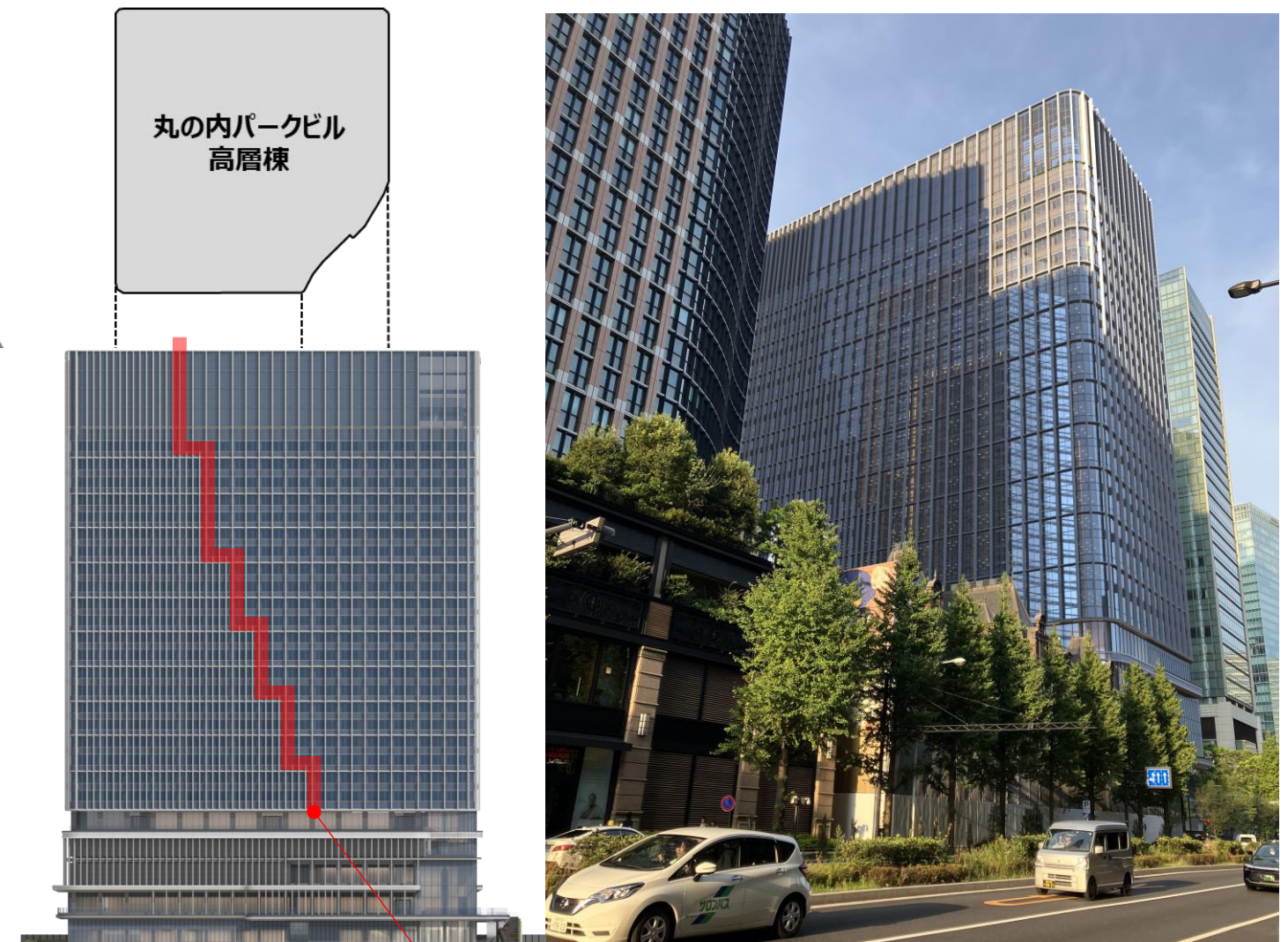
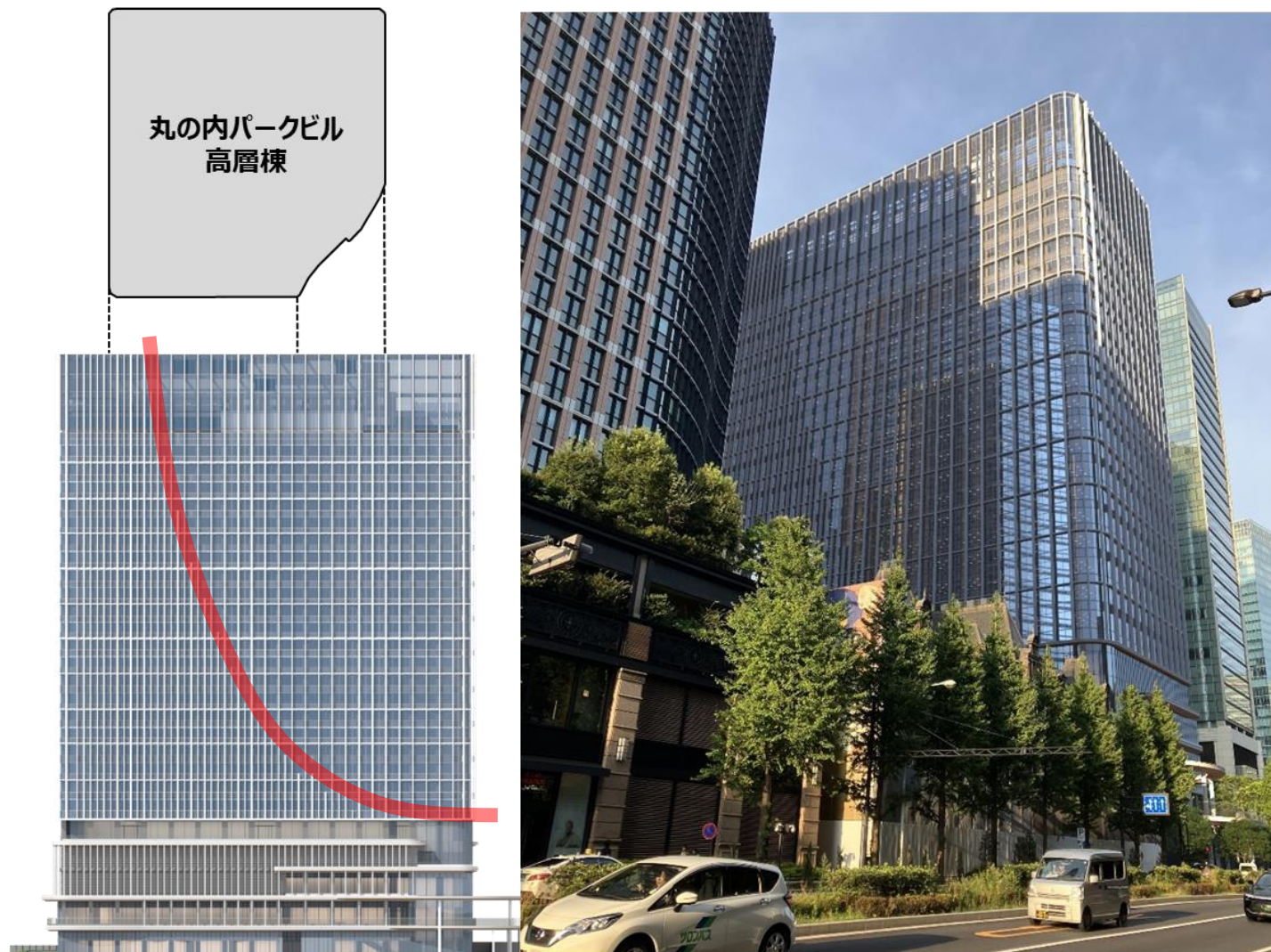
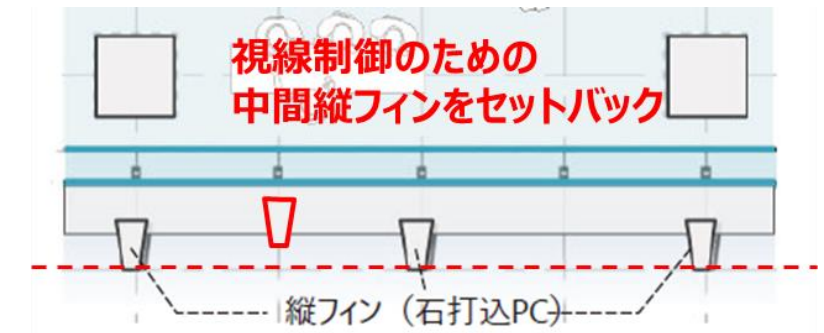
落ち着いたある街並みに配慮した高層部デザインの見直し

- 大きなカーブ状となっていた「視線制御のための中間縦フィン」の配列を再考し、室内側へのセットバックと層単位の配置整理により、ベースとなる「縦基調」が強調されるように再構成した。

当初案 (R5.7)



変更案 (R7.9)



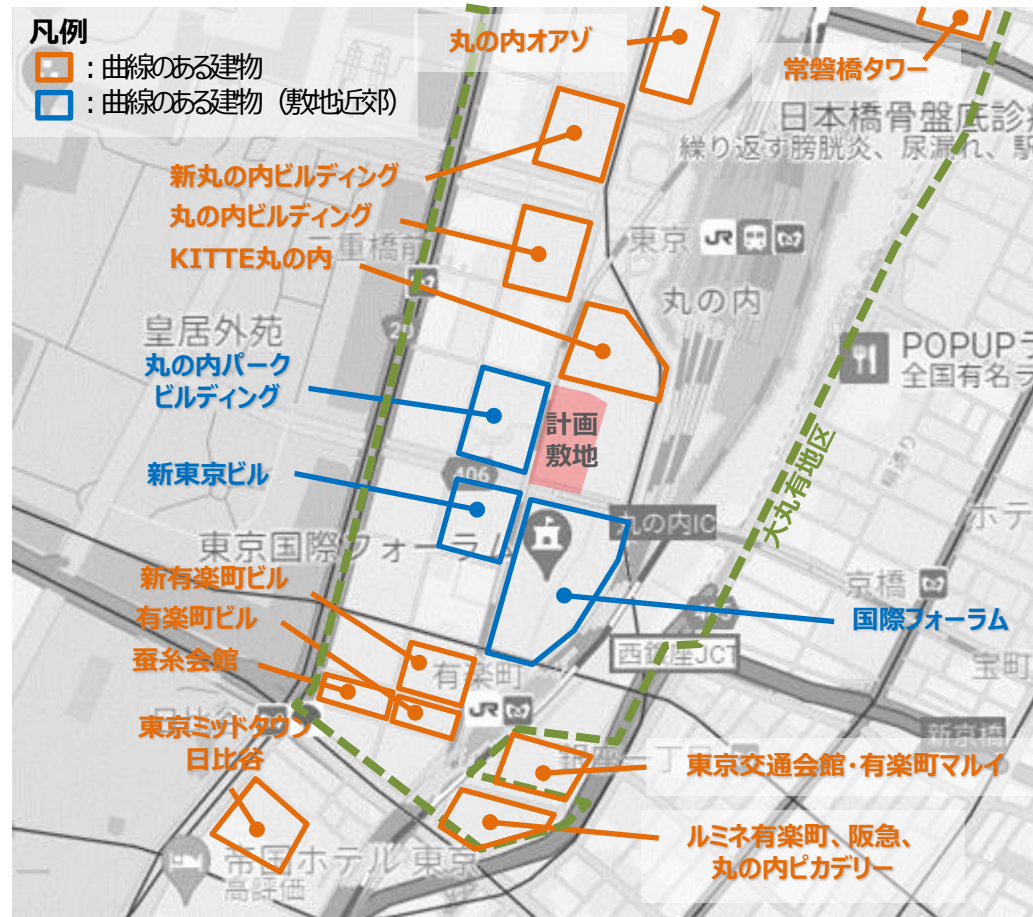
カーブ形状から配列を見直し、「縦基調」が強調されるよう見直しをおこなった

高層部コーナーのR形状について

- ・高層部の角をアール形状とすることで、隣接する丸の内パークビル、道路向かいに建つ国際フォーラムの緩やかな曲線に調和する計画とした。
- ・周辺の街並みにおける風環境への影響が最低限となる形状を検証し、高層部角にアール形状を採用した。

【曲線のある周辺建物】

- ・敷地周囲の多くの建物にて、建物外壁に曲線が用いられている。
- ・近接する①丸の内パークビルディング②新東京ビル③国際フォーラムにおいても外装が曲線となっており、特に丸の内パークビルディングと国際フォーラムは曲面形状が特徴的な外観となっている。



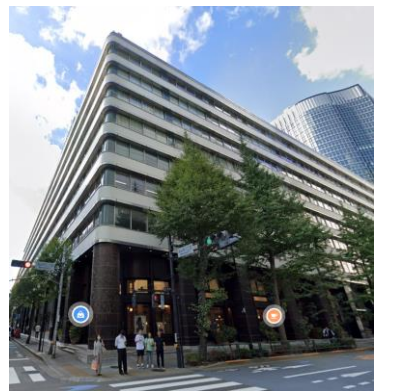
本計画 高層部角 アール形状



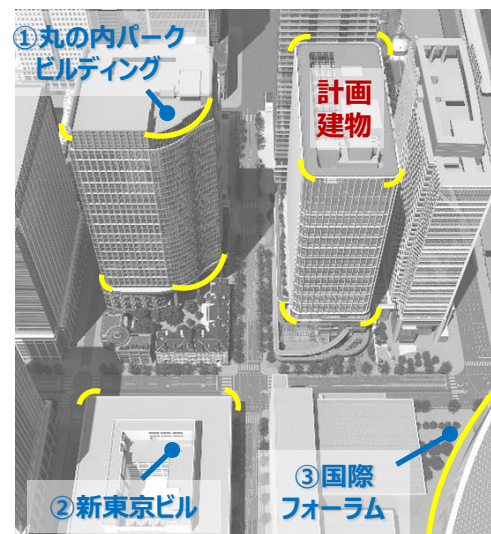
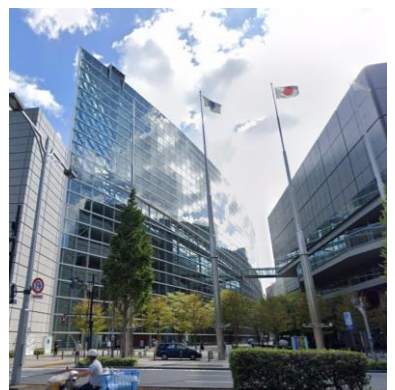
①丸の内パークビル：
高層部角アール形状+ゆるやかな曲線



②新東京ビル：
外周部四辺の角アール形状



③国際フォーラム：
大きな円弧



※Google Map より 引用